

教育姿勢を示すシンボルとして、太陽光発電システムを設置 生徒たちはもちろん、保護者の方々にもアピール

創立125周年を迎え、記念事業の一環として、体育館を建設。その屋上に太陽光発電システムを設置しました。館内では啓発パネルや発電量を表示する液晶ディスプレイで、環境に対する学校の姿勢をわかりやすくアピール。学校のイメージアップにも貢献しています。



■導入高等学校



桃山学院高等学校 さま

- 大阪／大阪市
- 学校法人桃山学院が運営しているミッションスクール。自由を尊重する校風の中、自らの責任を自覚し、良識ある若者を育てることを方針とされています。中学校、大学も運営。



■導入商品

太陽電池モジュール NU180LW(単結晶) × 224枚 = 40kWシステム

- 2009年12月、創立125周年記念で建設した体育館に、太陽光発電システムを導入。

こんなソリューションを実現しました

Before

導入前(課題)

1

創立125周年を機に、これからの地球環境を考え、広くエコ活動を啓蒙していく姿勢をアピールしたいと考えていた。

2

これからの社会・未来を担う生徒たちの“省エネ・エコ意識”を高めたいと、つねづね考えていた。

3

法人として、桃山学院グループ全体のイメージアップをはかりたいと以前から考えていました。

After

導入後(効果)

1

太陽光発電という、話題性があり目に見えるシステムを導入し、社会に貢献していく姿勢を見せることができました。

2

太陽光発電システムを導入したことで、生徒たちのエコ意識が向上。ボトルキャップ回収運動という提案も現れ始めています。

3

教育姿勢をカタチとして見せることができ、保護者の方々へのアピール含め、法人全体のイメージアップに大きく貢献しています。

■インタビュー



目に見えるエコ活動。 生徒たちの意識も向上しています。

2009年12月、創立125周年記念で建てた体育館の屋上に、太陽光発電システムを設置。館内に液晶ディスプレイと啓発パネルを設置し、目に見えるエコ活動としてアピールしています。生徒たちから「晴れているから発電量も大きい」「曇りだからダメだな」などの声が聞こえることも。社会が良いと言っているものを、いち早く採り入れるのは子供たちにも良い影響を与えると信じています。

学校法人 桃山学院 常務理事
桃山学院高等学校 教頭
天井 祐司(あまいひろし)さま

豊富な実績、高い信頼性が、 シャープさんを選んだ理由です。

導入に当たり、複数メーカーのシステムを検討しました。数社から見積もりを取るなど、コスト的な要因も決定の基準のひとつでしたが、それよりも決め手になったいちばんのポイントは、実績の多さが証明する信頼度の高さです。“もしも”のことを考えると、多くの実績を持たれているメーカーなら、すべてにおいて対応が早いだろうと。購入後も安心して使用できることは、大きな評価点になりました。それらを総合的に評価し、シャープに決めました。

太陽光発電システムは、 桃山学院の教育姿勢を示しています。

運用開始から3ヶ月程度ですので、具体的なコストダウンの数値は出ていませんが、あまりその点は気にしていません。「太陽光発電システムを設置する」という価値に重きを置いています。桃山学院全体としての教育に対する姿勢、それを示すことが第一の目的でしたから。保護者の方々へのアピールを含め、学院のイメージアップに貢献しています。また、小規模ながら、2002年、時代に先駆けて風力発電を導入。我が学院の教育理念の一端をアピールするシンボルとして話題を呼びました。

生徒の自主性を重んじる校風。 生徒たちの“エコ意識”も高まっています。

最近、生徒たちからボトルキャップの回収運動をしたいという声が出てきました。当校は、生徒の自主性を重んじており、教師から細かい指示を出すことがあまりないのですが、生徒自らそういう姿勢を示してくれたのです。太陽光発電システムの導入をはじめ、当校の、地球環境やエコ運動に対する取り組みが、生徒たちの興味をエコへ向けたのだとしたらうれしい限りです。



「生徒たちも毎日興味深く見ている」と事務室の池上さま



太陽光発電と風力発電が設置された体育館の屋上